



photo 藤田佳久

「それぞれの眼差しの向こうに伝えたい思いがある。触れ合った温もりが何かを伝え合った」

もう一人のナイチンゲール

大切な人が病に苦しむ時、傍にいてことや手を握ることで安心感を与え、十分なケアになることをご家族にお伝えすることがあります。しかし、手を握っていても無力感や緊張・動揺から「心ここにあらず」の状況に陥るご家族がいらっしゃるのも事実です。

人は、体力が低下し、目を開けることや声を出すこともままならない状態になっても、耳は聞こえるといわれています。また、肌に触れる温もりも、家族の居る空気も感じる事ができるので、

Aさんは熱のために顔が紅潮し、辛そうに見えます。ご家族はとても心配され何度も熱を測ります。どうしても熱に気持ちりが集中してしまいます。お酒が好きというAさん。日本酒を含ませたスポンジで口を湿らせてみました。熱で紅潮した顔を「酔っぱらってるみたい」とご家族

は笑い、その姿を写真に撮りました。

Bさんのお孫さんは2歳です。「元気になってね」と紙パンをBさんの体にべたべた貼っています。

家族とのお別れが近づいたCさん。声をかけても返事はありません。お嫁さんは緊張でこわばった表情で付き添っています。看護師の提案で、Cさんがいつも聴いていた音楽をかけ、アロマオイルを使いCさんの手をゆつくりマッサージしました。マッサージしながら「お母さんありがとう」と声をかけ、思い出を語りかけて優しく微笑むお嫁さんが居ました。

患者さまを見つめ、心の通ったケアができるご家族の姿に日々感動させられます。そんな素敵なケアができるご家族は、もう一人のナイチンゲールなのです。

外崎 友紀・文

函館おしま病院
ホスピス病棟看護主任



とのざき ゆき
伊達赤十字看護専門学校卒。
平成17年函館おしま病院勤務。
平成23年4月より同病院ホスピス病棟看護主任に
就任し、現在に至る。